



# ゆりぼと

-YURI GIRL NEXT STORY- STORY#4

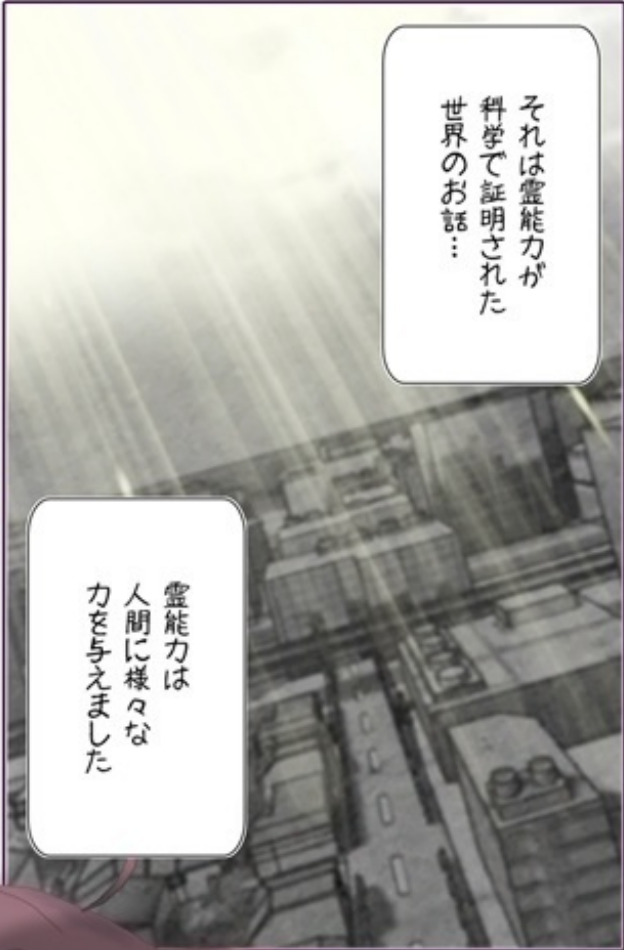




# ゆりばと

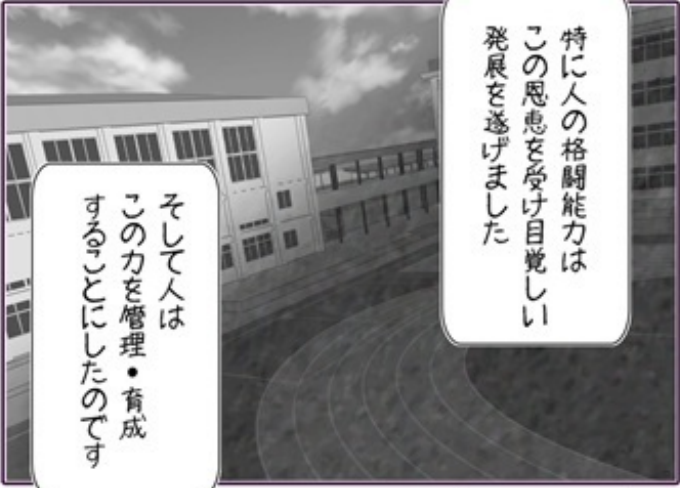
-YURI GIRL NEXT STORY- STORY#1

NANAMI MADOGIWA




それは霊能力が  
科学で証明された  
世界のお話…

霊能力は  
人間に様々な  
力を与えました



特に人の格闘能力は  
この恩恵を受け目覚しい  
発展を遂げました

そして人は  
この力を管理・育成  
することにしました



ここ十二月学園は  
そんな力を持つ少女達を  
育成する世界初の施設

戦う乙女の集う  
場所なのです！





あやな

もうすぐ時間よ

三年B組  
皐月 かえで



おきて…

あやな…



ん…  
もうそんな時間…

……  
おねえちゃん…

一年D組  
葉月 あやな



……  
強くなったよね  
あやな



私はあやなの寝顔  
見れてとても満足よ

ごめん…  
あんまり気持ちよくて  
熟睡しちゃった



うん…  
もう私は大丈夫…



今の私には  
おねえちゃんが  
いてくれるから

頑張れるの



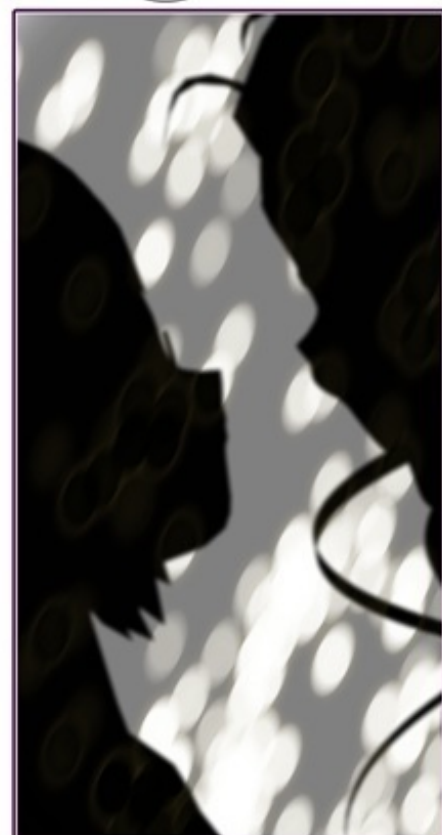
私はちよっと  
あやなの背中を  
支えただけ

でもそれで  
あやなが強くなるなら  
私は嬉しいわ



もう  
いじめられて…

絶望だった  
あの頃の私じゃない



うん

おねえちゃん



試合

頑張っ  
てね



これは  
貴方の女神からの…

祝福よ…



これより一年生による  
戦闘の模擬試験を開始  
します



登録した生徒は  
速やかにバトルエリアに  
入ってください



やっと  
来たわね…



何をやっても駄目駄目  
あやなちゃんか…

三年の先輩に  
可愛がられるようになって  
随分調子にのってる様ね

一年D組  
金沢 美奈子

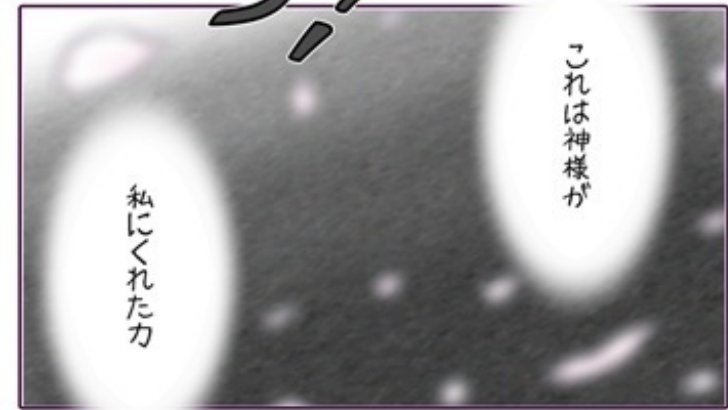


もう私は…

いじめられっこの  
私じゃない



気に入らない！



私にくれた力

これは神様が



それでは  
試験を

開始します



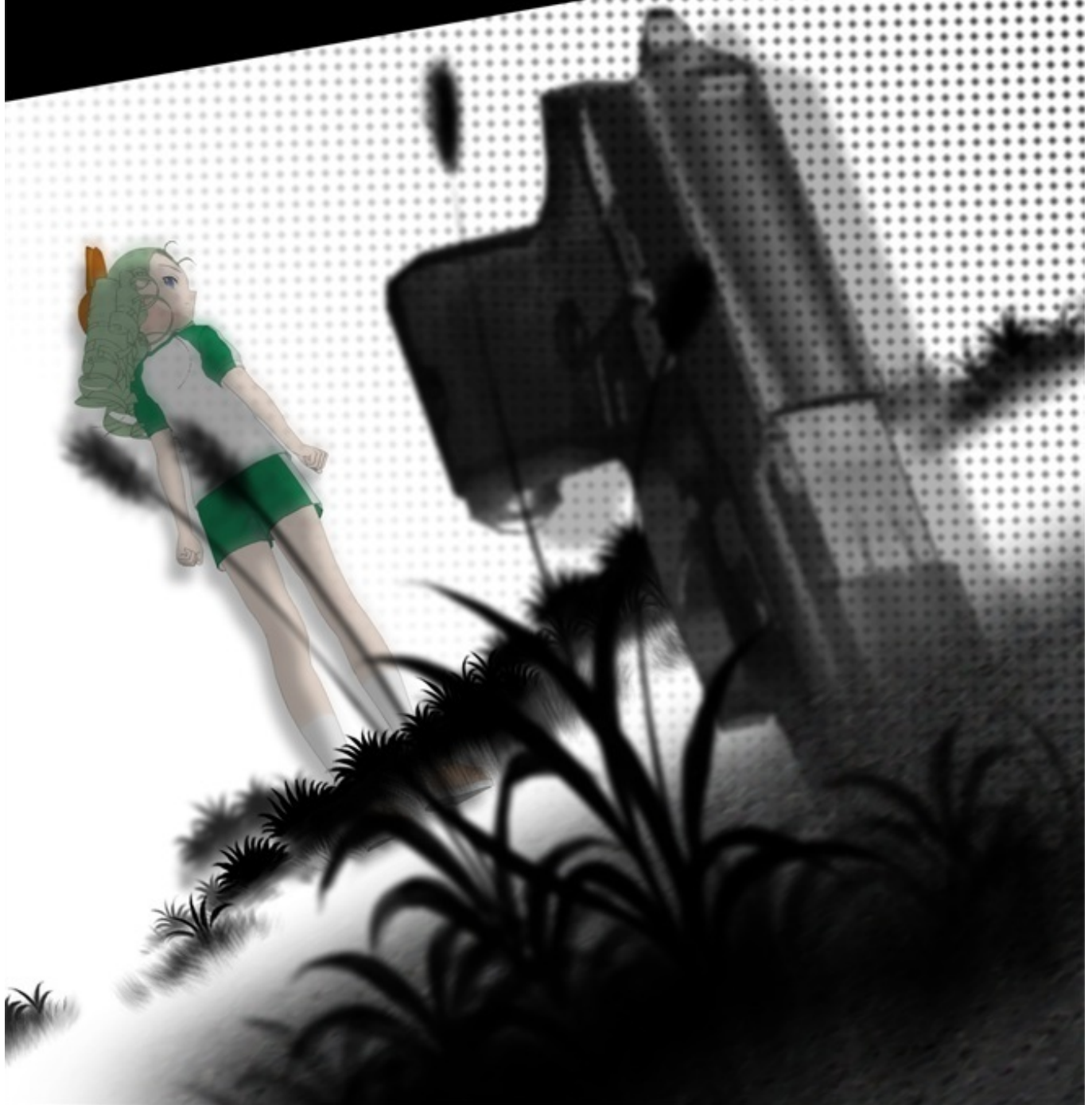







# ゆりばと


-YURI GIRL NEXT STORY- STORY#2





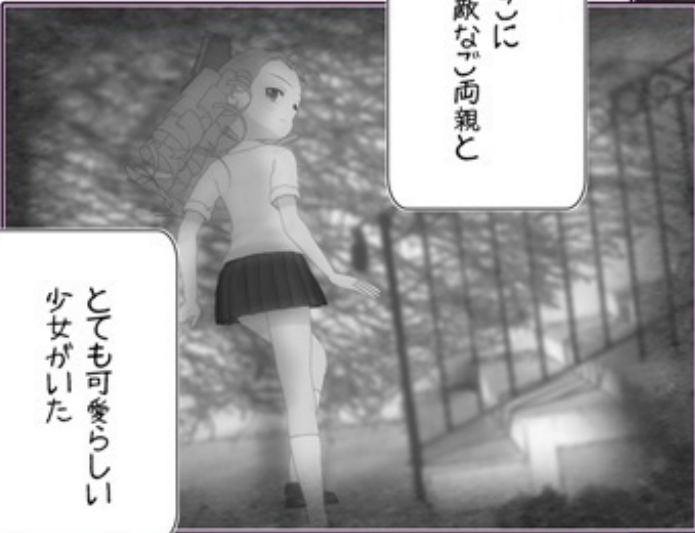
私は闘いの中…  
薄れ行く意識の中で

あの出来事を  
思い出していた




私の家の近くに

そこに  
素敵な<sup>ご</sup>両親と



とても可愛い  
少女がいた

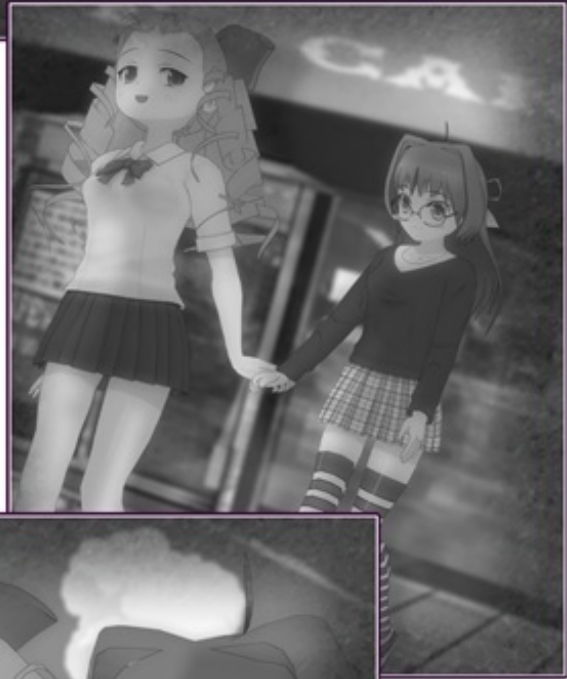
とても大きな  
お屋敷が建った



私は  
一目見てお友達に  
なりたいたと思った

家が近所という  
こともあって  
私たちはすぐに  
友達になった

いつしか家族ぐるみで  
付き合うようになった



でも  
そんな幸せな時間は  
突然終わりを告げた





なんて…貴方の親は  
業なんてやってたの…

私も両親を失った  
でも…おねえちゃんの  
言葉が一番重かった

そしてその日から  
私に見せるその目は  
憎しみの目になった

おねえちゃんは  
その後親戚へ  
引き取られること  
になった

んん…んん…

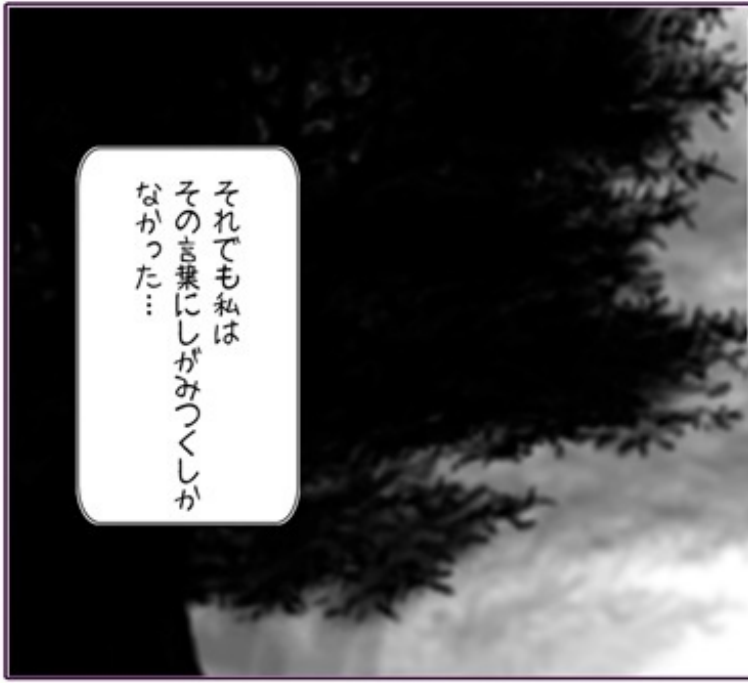
私はどうしても  
もう一度謝りたかった

ドクン

ドクン

そうね  
だったら丘の上の  
巨木でも素手で  
倒してもらえろ？

もしできたら  
許してあげるわ



それはただ  
無茶を振っただけ  
だったのだろう

それでも私は  
その言葉にしがみついた  
なかった…

毎日自由になる時間は  
巨木を叩き続けた



皮は剥け  
血が滲み  
骨がきしむ




当たり前だが  
何度叩いても  
傷をつけるのが  
やっとだった

それでも  
諦める訳には  
いかなかった

そして…  
いくつ時が  
経ったのだろう





二年前突然  
私の目の前で  
巨木は倒れた

そのとき何が  
起きたのか  
思い出すことが  
出来なかった

その後私は  
霊能力の素質があると  
判断され

ただ…  
神様の声が

施設を出て  
この学園に  
来ることになった

そして私は

聞こえた気がした

この学園で

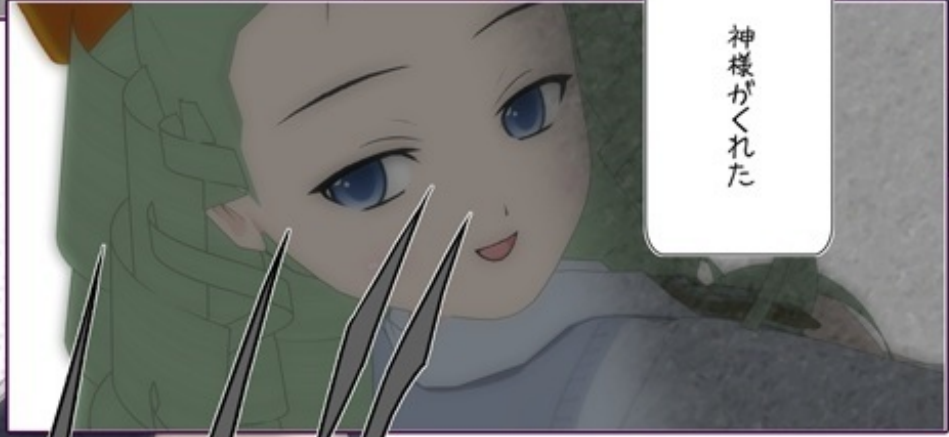





また…会えた…




これは…きつと…



神様がくれた



私はもう



キセキだ！

諦めない



すごいね  
あなた!

かなり  
ドキドキしてきた



諦めたら  
また

大好きな人が  
消える気がするから



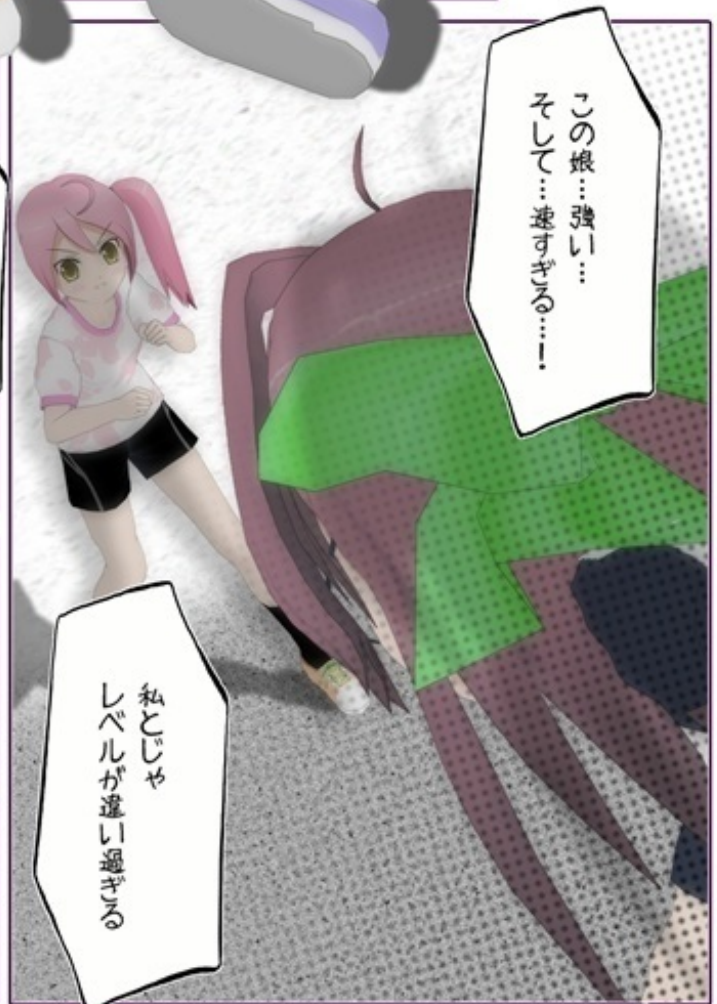
TO BE NEXT STORY

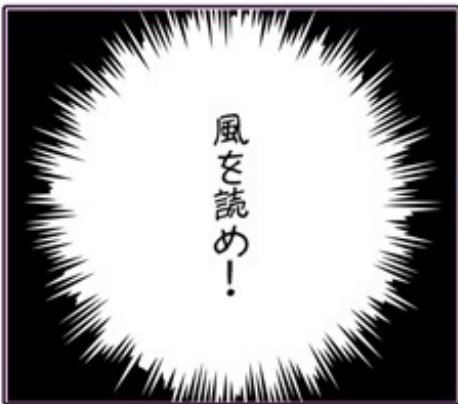
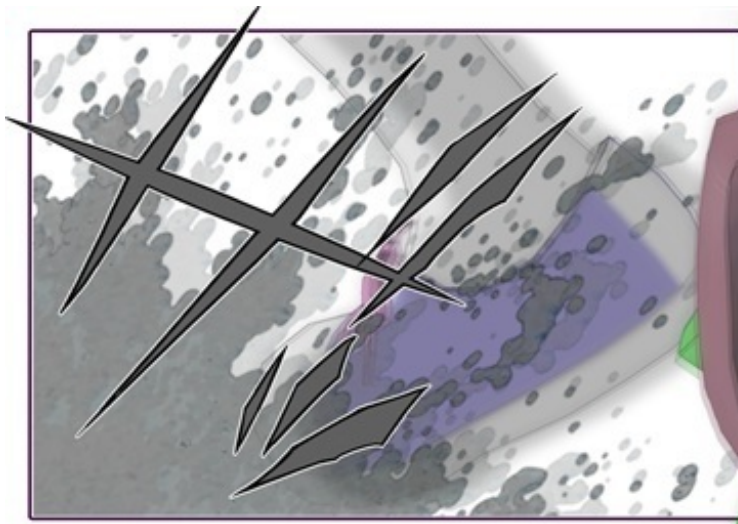


# ゆりばと

-YURI GIRL NEXT STORY- STORY#3









流れを読んで  
敵のいる位置を把握し

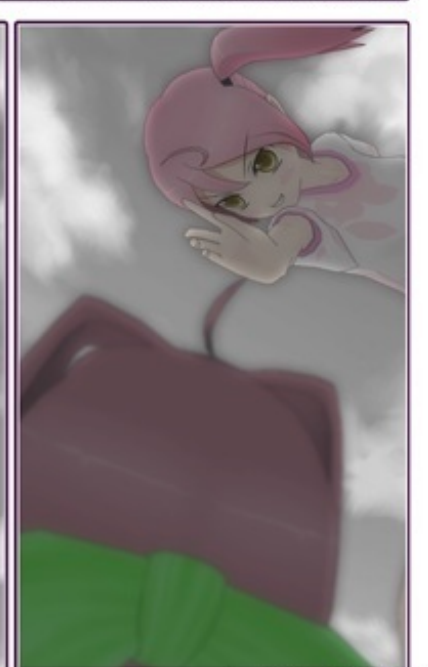
攻撃を予測する！



一撃必殺



私の全てを  
叩き込む！



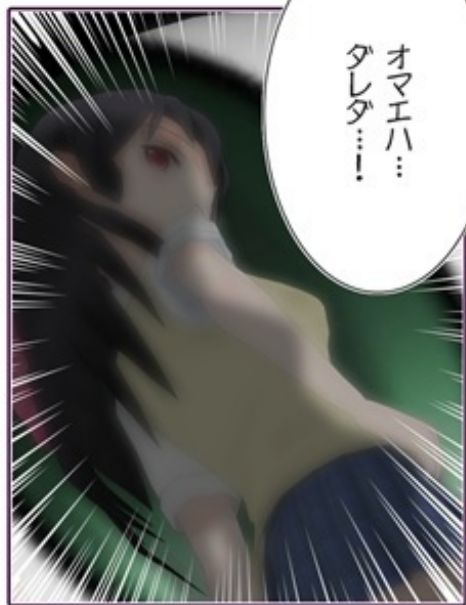




グングニール  
剣戟の響き〜！



なんだ…？  
この狂気的な気配



オマエハ…  
タレタ…！

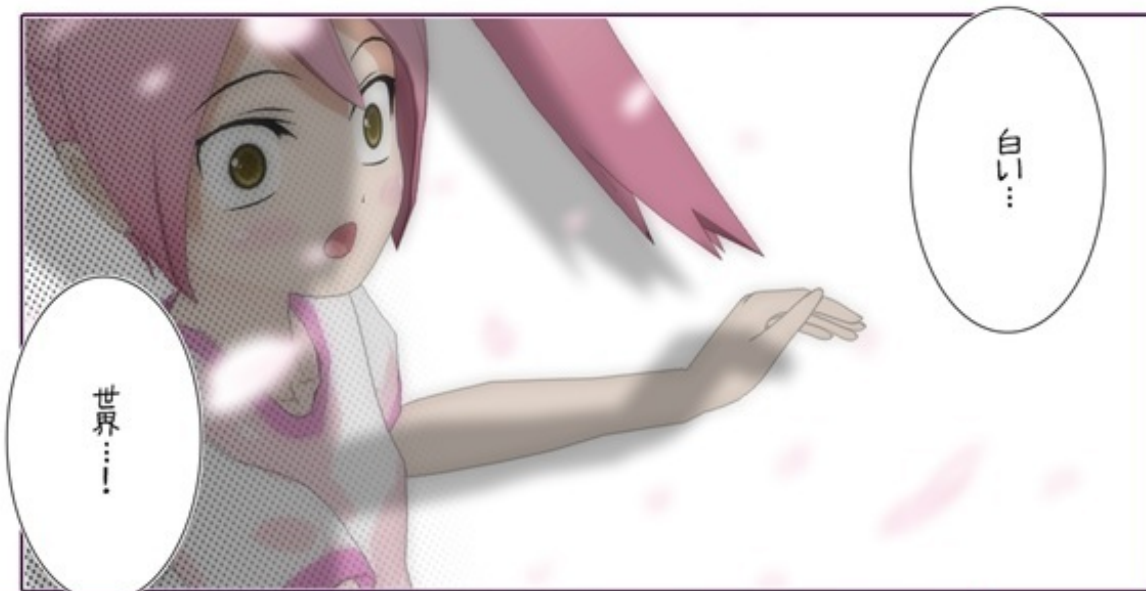


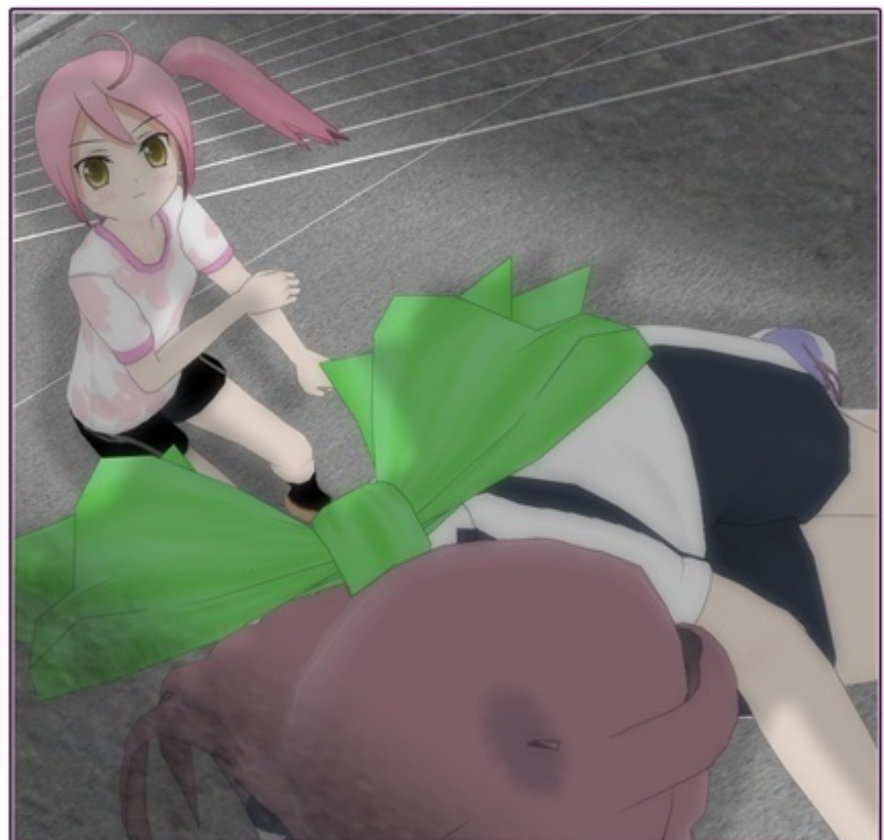
…！  
瞳の中に…！













最後まで諦めない  
その力強い意思と

その瞳に住む  
ミステリアスな  
少女も含めて…ね



貴方のこと  
気に入っちゃった

私…



親愛なる

マイ・プリンセス  
私のお姫様



…彼女の力…  
調査する必要が  
ありそうね

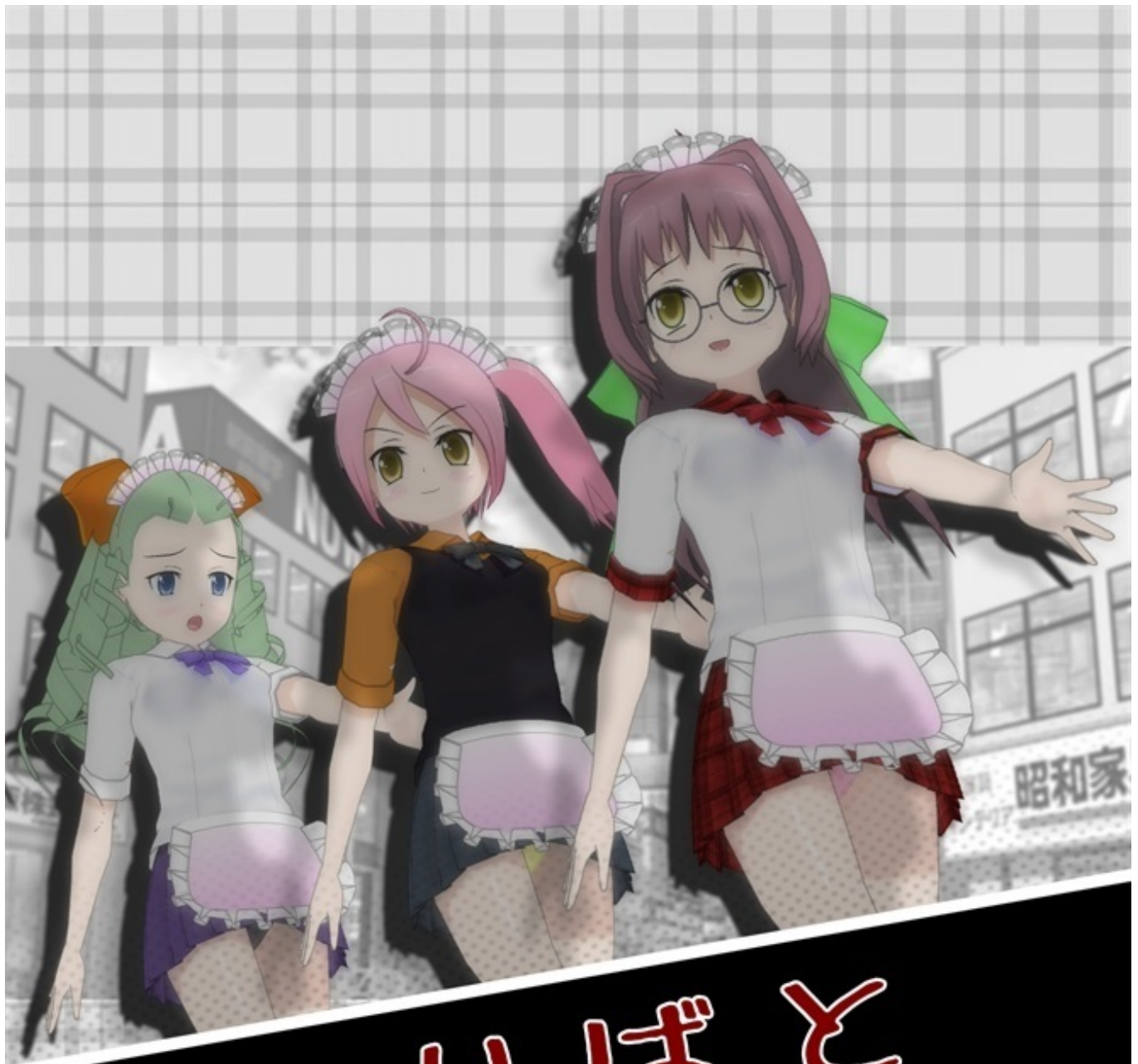
一年A組  
師走 一姫



二姫ったら…  
目立っちゃって  
まったく…

それにしても…

TO BE NEXT STORY



# ゆりばと

-YURI GIRL NEXT STORY- STORY#4





一緒にお昼ご飯を  
食べましょう！



ねえ貴方…







ふっん…

は…?

ああ…そうだ…

あんな人の事  
知らないわよ



貴方…  
あやなちゃんのこと  
虚めてたんだって?

今度虚めたら…  
殺すよ?

ひっ!

は…葉月さんなら  
お昼は三年の先輩と  
中庭に…い…いるはずよ



……  
本当に

殺されるかと思っ  
た……

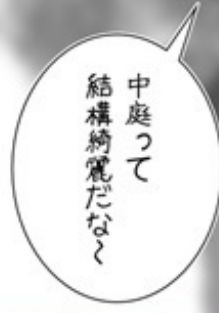


ふうん……  
中庭ね

ありが  
ご



おお  
〜

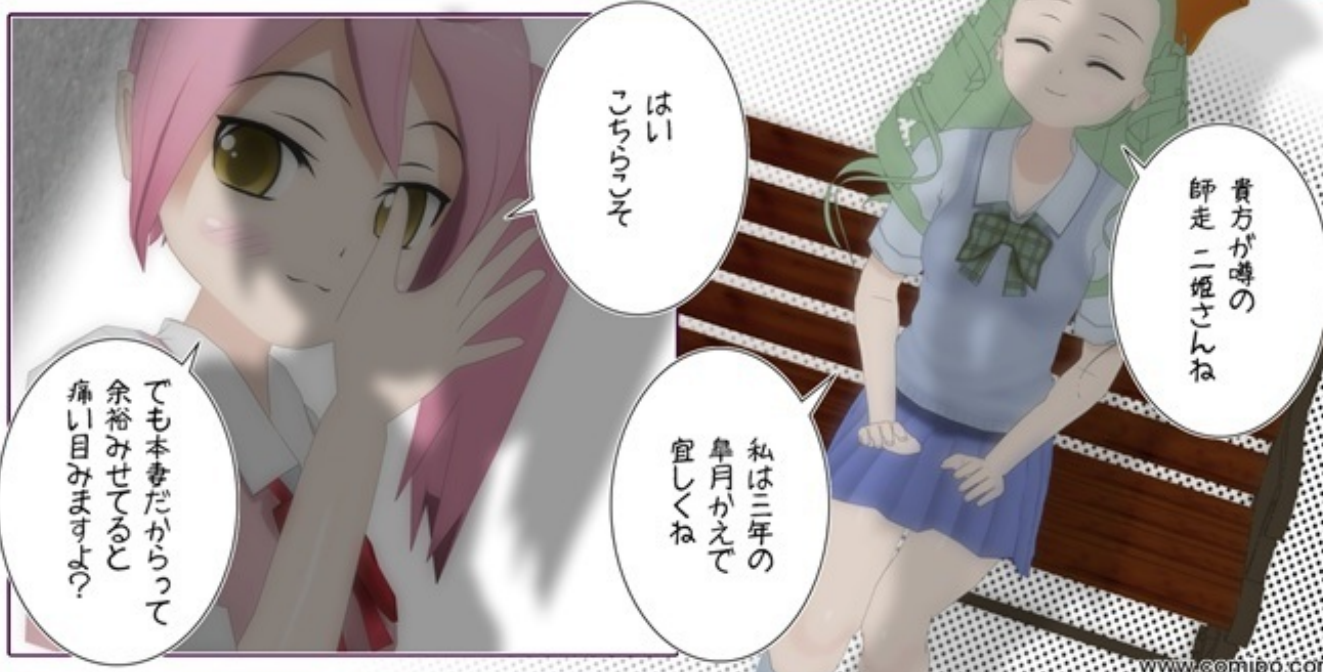


中庭って  
結構綺麗だなく



発見  
!







ねえ…  
あの娘の何処を  
好きになったの？

そうね  
ご忠告ありがとうございます



好きな女の子は  
全部ですよ

最初に気になってから  
三日でハマりました



……  
……  
例えばの話でもし  
あやなの家族が

貴方の大切な人の  
命を奪ったら…

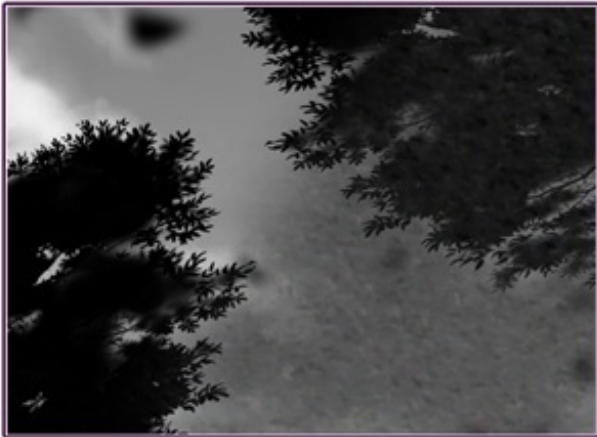


今の私なら  
彼女のために

命だって  
懸けますよ



どうします？





もしそんな状況なら  
あやなもきつこ  
苦しんでると思っよ

私はもう憎しみを  
生むような真似は  
しない

一緒にそれを  
背負っていきたい



……私に……  
そんな資格があるかは

別だけどね

私は……

決断しなければ  
いけない

TO BE NEXT STORY